

遺伝子汚染をくい止め 生物多様性を守ろう！

「国際生物多様性の日」記念イベント

2013年5月18日 東京都

グリーンコープは、遺伝子組み換え(GM)作物に一貫して反対しています。思いを同じくする全国の仲間と共に設立した「食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク(以下、食農市民ネット)」の主催で、「国際生物多様性の日」(5月22日)に向けて、GM作物について生物多様性の観点から考えるシンポジウムが開催されました。概要を紹介します。

※ 国連が生物多様性に関する条約の採択を記念して制定した日



アメリカの大豆畑に繁殖するヒメムカシヨモギ。除草剤が効かず、農民たちはより強力な除草剤を使わざるを得ない



基調講演

生物多様性を脅かす遺伝子組み換え作物
「遺伝子組み換え大国
アメリカで何が起きているか」



アメリカの食品安全センター 弁護士 ペイジ トマセリさん

食品安全センターは、アメリカで食の安全や環境、農業の問題に取り組む市民団体。GM問題ではアメリカにおける中心的存在。弁護士資格を有するペイジ トマセリさんは、GM問題に関する法律や政策面で活躍している

承認間近か、GMサケ

アメリカで、食用としてGMサケを承認する動きがすすんでいる。このGMサケは、アトランティック・サーモンに大型のキングサーモンの成長ホルモン遺伝子と、水温が低い中でも活動できるゲンゲという魚の遺伝子を組み込んだもの。成長速度は通常の2倍になった。開発企業は繁殖不能だというのが、実際の不妊率は95%。自然界に逃げ出して繁殖し、遺伝子汚染などが起きて生態系に影響を及ぼす恐れがある。

そして今、成長を早めることなどを目的に、GM樹木の研究開発も行われている。樹木は農作物よりも複雑な器官を持ち、交配しないで増えていくなど様々な繁殖方法がある。野生のものと交配する確率も高く、寿命が長

いので、承認されれば環境への影響が大きいと懸念されている。

GM作物は 生物多様性を壊す

アメリカで開発に成功し承認されたGM作物は、大豆、トウモロコシ、綿花、ナタネ、テンサイ、アルファルファ、パパイアの7種類。

作物の遺伝子汚染は、GM作物の花粉が非GM作物と交配することによって起きるが、隔離していても完璧には防げない。GM作物のうち85%強が除草剤耐性。除草剤耐性が除草剤の栽培面積を増えるにつれ、除草剤の使用量が激増した。そして、除草剤をかけても枯れないスーパー雑草が出現し、さらに毒性の強い除草剤の使用量が激増するとい

う、取り返しつかない悪循環が生まれている。

また、GM作物開発企業であるモンサント社の害虫耐性作物によって、虫たちにも耐性が出てきている。スーパー雑草のように、これまでの殺虫成分の入った農薬では効かない害虫が増えることを危惧している。栽培作物以外の動植物にも影響が出ている。例えば、オオカバマダラという蝶は、主食のトウワタという植物が除草剤により減少し、生息数が激減している。

GM作物を 推進するためのウソ

GM作物の開発をすすめる企業は「GM作物は世界の食料難を救う」というが、開発から20年を経た現在でも、GM作物が非GM作物より収量が多いという証拠はまだ一つも出ていない。「栄養価の高い作物を作ることができる」とも主張するが、実際に非GMのものより栄養価の高いGM作物はまだ開発されていない。また、「環境にやさしい」という主張もあるが、実際には農薬使用量が増加している。

GM種子は、買い続けなければならぬ

ごく少数の開発企業がGM種子の特許を独占している。まずGM作物の栽培を始めた農家は、GM種子を自家採種することが禁じられる。GM栽培農家でなくても何らかの理由でGM種子が畑に混入し、知らずに栽培してしまっても、特許権侵

報告 日本でも広がる 遺伝子組み換え汚染



食農市民ネット共同代表 遺伝子組み換え食品いらない! キャンペーン代表 天笠 啓祐さん

寝入りした。また、2012年の農林水産省と環境省の生育実態調査で、沖縄県内の道端や民家の庭先にGMパパイヤが自生していることが分かった。GMパパイヤによる日本の生物多様性への影響が懸念される。

GMナタネ自生 全国調査から見える 深刻化するGM汚染

2005年から、市民が各地でGMナタネ自生調査をはじめた。2006年には、除草剤のラウンドアップとバスターの両方に耐性を持つGMナタネ、2007年には多年草化したGMナタネ、2008年にはカラシナとの交雑種、2009年にはブロッコリーとの交雑種、2010年には雑草のハタザオガラシとの交雑種が見つかった。2011年には、試験紙を使った1次検査では陰性でも、2次検査のDNA鑑定では陽性の除草剤耐性を保有する「隠れGMナ

タネ」が見つかった。日本でもGM汚染が確実に広がっている。

GM汚染を くい止めるために

日本はGM作物の輸入大国だ。いろいろな食品の原料の中に遺伝子組み換えされたものが入っている。例えば、植物油はGM大豆やGMトウモロコシ。調味料のアミノ酸やビタミンB2、EなどはGM食品添加物だ。加工食品は、主な原材料でない場合は表示が省略できるなど、日本のGM表示には問題が多い。消費者はGM作物由来のものには食べたくないと思っている。すべての品目を義務表示とするよう国に求めていく必要がある。また、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)に参加すれば、GM作物がどんどん入ってきてしまうだろう。私たちは、GMナタネ自生調査と同時に、社会や政治にも目を向ける必要がある。



日本国内に自生するGM ナタネ